

両極海域の地質・古海洋大型研究の可能性

Potentiality of development in geology and paleoceanography of polar oceans

*山本 正伸¹、池原 実²、原田 尚美³、菅沼 悠介⁴、板木 拓也⁵、朝日 博史⁶

*Masanobu Yamamoto¹, Minoru Ikehara², Naomi Harada³, Yusuke Suganuma⁴, Takuya Itaki⁵, Hirofumi Asahi⁶

1. 北海道大学大学院地球環境科学研究院、2. 高知大学海洋コア総合研究センター、3. 海洋研究開発機構、4. 国立極地研究所、5. 産業技術総合研究所、6. 韓国極地研究所

1. Faculty of Environmental Earth Science, Hokkaido University, 2. Center for Advanced Core Research, Kochi University, 3. JAMSTEC, 4. National Polar Research Institute, 5. National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, 6. Korean Polar Research Institute

北極海と南大洋は新生代の全球気候変動にとって重要な影響をもつ鍵となる海域である。近年の北極海を取り巻く環境は温暖化を含め著しい変貌をとげており、その将来予測が急務となっている。今後の研究においては、新生代寒冷化の進行経緯、過去の温暖期における海水分布状況、ベーリング海峡の気候的意義、極北文化と気候変動との関係を明らかにしてゆくことが特に重要である。南大洋は熱や淡水、炭素、栄養塩などを全海洋へ再配分することから、気候システムの重要な役割を持っている。南極大陸の氷床形成と南大洋での海水変動もまた、地球気候システムの重要な変動要素である。東南極氷床と南大洋の間の相互作用のダイナミクスを理解するためには、南極大陸棚周辺の大陸棚と沖合における緯度トランセクト掘削による古気候研究が必要である。研究の推進においては、国際深海科学掘削計画による海底掘削、砕氷調査船を用いたコア試料の採取、海底地形調査が不可欠である。

キーワード：極域海洋、古環境、地質

Keywords: Polar oceans, Paleoenvironment, Geology